



また、親の権力をふりかざし、時に脅しや体罰を交えた育児スタイルは、力の強い者が力の弱い者をねじ伏せてよいという関係を学習してしまいます。そのため、自分が優位に立てるときは強い態度で、そうでないときは卑屈な態度で周囲に接しようとするなど、状況によって態度を変え、自己主張だけが強くなってしまい、本当の意味での自己抑制能力が育ちににくくなります。

親の性格が育て方にあらわれる

親の間わりが、子どもの性格・行動にどういった影響を与えるかを見てきました。ということとは、親の性格の傾向により、子どもの性格も変わるといえます。あなたの性格のよい悪いを断じるわけではなく、「自分はこういう傾向に陥りやすい」という気をつけるポイントとして覚えておいてください。

子どもの言うこと、やることをそのまま受けとめる「受容的態度」をこる親の場合、子どもは自分の思いを制限されることなく出すことができるので、自己主張能力が高まります。また、「よかったね」「つらかったね」と、子どもの気持ちにそうような「共感的態度」は、自分が抱いた感情を否定されることもなく、また親の共感により適正な感情の表現法を学べるので、子どもの自己制御能力を高める傾向があります。

一方、子ども自身の自由度が低く、あれこれ親が決定してしまう「統制的態度」は、子どもに無力感を学習させてしまいます。自分で決定した経験が少ないので自己有能感が低く、そのため自分のことすら自分でコントロールする自信がなく、自分を抑制することが苦手となるでしょう。